

伊藤ひろし伝言板

平成20年度予算への要望項目

今までの定例会における一般質問などで、習志野市における教育、環境対策、さらには市民の安心と安全など、様々な問題点の指摘や改善を訴えてきました。そこで、20年度予算編成にあたり下記のことを是非実現するように要望しました。

- ・ JR津田沼駅南口バス通路のアーケード設置
- ・ 就学時までの子ども手当の創設
- ・ 教育委員会前の京成線の高架化
- ・ 太陽光パネル設置等の助成
- ・ 小人数指導員の創設
- ・ 妊婦検診の助成の拡充
- ・ 多目的グラウンドの増設 など

ずっと住みたいまちを実現するために、今後も伊藤ひろしは日々活動していきます。



ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

習志野市袖ヶ浦2-4-1-201

✉ hiroshi-ito@hiroshi-ito.com

TEL・FAX 047-454-8358

<http://www.hiroshi-ito.com>

習志野散歩道

35mはしご車体験



習志野市役所の向かいにある中央消防署では、毎月第3土曜日の午後から市民への緊急車両の公開を行なっています。

実際に緊急車両の中に入り込んで見学をすることができます。更に、防災に対する意識を深めてもらうために消火器の体験や、煙が入ったテントがあったり、人工呼吸の練習の人形などがあります。

そして、高さが最大35mになるはしご車に実際に乗ることもできます。会場には子供連れの家族が多く見られ、興味深そうに見学をしていました。

見学はもちろん無料です。是非一度見学してみたいはいかがでしょうか。

伊藤ひろし

習志野市議会議員

習志野 ずっと住みたい まち計画

2008/2 第11号

スピード感は改革の大原則！

- ① 事故を起こさない「遊具点検マニュアル」を！
- ② ベルトを締めなおせ！「960事務事業の総点検」
- ③ 先送り体質は許せない！「補助金の見直し」

今回の一般質問では、質の高い・時代に適応した行政サービスに変えるために、事業の見直しはどのような状況にあるのか質問しました。



事故を起こさない「遊具点検マニュアル」を！

10月に香澄の公園で、小学生が遊んでいたブランコのチェーンフックがはずれ、前の囲い鉄に頭をぶつけ裂傷する事故がおきました。このブランコは、春の専門業者による点検では「B評価」でした。

10月に県から市町村に対して、全ブランコの点検の指示があり、職員による再点検で、交換の必要があると判断し、製品違いのブランコを取り付けてしまった事が今回の事故の原因です。

昭和31年に管理事業が始まって遊具メーカーが記載された台帳はなかったのか

帳簿形式の台帳はあるが、集計等に見合ったものでなかった

新たなチェックシートの作成に部の職員全員から提案を集めてもえないか

公園緑地課を基礎に、色々な方の意見を聴いて点検マニュアルを作成したい

コメント

市は、職員による定期点検を年2回から毎月1回に増やす方針です。子どもが利用する公の施設は、77%が公園です。子どもたちの育成場所である公園の安全管理の研究を今後も求めていきます。

ベルトを締めなおせ！「960項目の事務事業の総点検」

市は、平成22年度末までの行財政改革の項目を数値化した「集中改革プラン」に取り組んでいます。市長は22年度末までに、借金776億円以下、職員数1341人を目標にすると公言しています。

市長は事業の総点検を「ふんどしを締め直してやらないといけない」と発言しているが見直しの状況はどうなっているのか

- 市が検証した結果、
時代に適合しているか → 廃止・縮小 30事業
民間で実施できないか → 保育園、幼稚園の運営について民営化を検討
臨時職員や派遣職員で代行できる業務はないか → 期待しているほどなかった



4月から新たな組織で再度、事務事業の見直しをしていく

職員提案制度では、何件の改善案があったのか

- 17年度／18件 18年度／3件 19年度現在／2件 計23件と先細り
このうち8件が実施された

提案件数が少ないが改善の限界にあるのか。制度のPRはしているのか

- PRは庁内研修誌で掲載している。今後は、強化月間、1課最低1件、褒章制度、人事台帳への登載など工夫し、アイデアを市政に活用していきたい。

コメント

質の高い行政サービスを展開しつつ、今回の削減目標を達成するには、相当の業務改善が必要なはず。悠長な体質を打開し、職員1人1人が汗と知恵を出し、一丸となって「市民のための市役所」という原点に回帰する行政運営になったか随時チェックしていきます。

事務事業の見直しを行なった場合の削減効果

職員数（企業局除く）

1441人（17年4月1日）



1341人（22年4月1日）

100人の削減！

債務残高

954億8千万（16年度末）



776億（22年度末）

178億8千万の削減！

先送り体質は許せない！「補助金の見直し」

市は、ようやく1年前に提出された「補助金審査委員会の報告書」を公表しました。そこには、根拠法令の不整備など14項目の見直しが指摘されていました。

審査終了から1年経過しています。市民に明確・適正な補助金支出に改めるため、2年間に及ぶ市民による審査を軽視されないためにも、指摘された項目の改善に取り組んでいるのか追求しました。

前議会で「各補助金の削減額の基準づくり」はできたか質問し、これから作成すると答弁があった。予算編成中の今、削減額のルールが必要と思うができたのか

- これから行革推進本部事務局で作成し、担当課と話し合っって削減額を決定する。

2年前から市民検討部会で指摘された内容が、今回も指摘されている。市は、明確な補助金にする為に、ガイドラインは作成しているのか

- これから、担当課と補助金の実情を協議しながら対象経費等の算定項目や基準を完成させていく。

今年度末までに補助金団体の為にも要綱を作成する必要があると思うが、いつまでに作るのか

- これから、来年度中に作成していく。

コメント

スピード感は改革の大原則です。今の行政には、補助金審査委員会の指摘・見直しを本気で改める姿勢が伝わってきません。見直しに手抜きは許しません。今後も経過を追求調査していきます。

補助金審査委員会による指摘（要点を抜粋）

- 支出の目的・対象・額の算出方法などが不明瞭
- 団体からの実績報告書を見ると、活動の実態が不明、お金の使途が不明瞭
- 同じ課から同じ団体に目的・名称を変えて色々な補助金が支出されている
- 市の内部に団体の事務局があり、それに市の職員が大きく従事している
- 補助金の額を超えて、補助事務に係る人件費が多額である